

開催挨拶

久米 均

東京大学名誉教授／組織委員会委員長

皆さん、おはようございます。ただ今ご紹介いただきました久米でございます。本日は、早朝から「石川 馨先生 生誕 100 年記念国際シンポジウム」にご出席いただきまして、ありがとうございます。

本事業の組織委員会委員長を務めている関係で、ひと言ご挨拶申し上げます。組織委員会の委員長と申しましても、特に何かをやっているわけではございません。この事業は狩野先生と日科技連の小大塚専務理事を中心に行われておりまして、私が石川馨先生の現存の門下生の最年長であるということでお引き受けしたわけでございます。そういう事情で名前だけの委員長になりました。

昨年の秋には、名古屋で IAQ (International Academy for Quality) の会合が開かれましたが、そこでも今日も来ておられる IAQ 会長の Janak Mehta さんから開会にあたってひと言喋るようにと言われまして、その理由を聞くと、私が出席者の中で一番年上だということで、年をとるとそういう役割が回ってくるのかなと思ったわけでありまして。今回は、こういう責任のある仕事を私はもう体力的にできませんのでお断りしたのですが、狩野先生のご要請は極めて強く、ついに説伏されましてお引き受けいたしました。

最近は何が忘れがひどくて、たとえば部屋の鍵とか自動車の鍵、どこに置いたか忘れまして探し回るといことがしばしばであります。昔のことは比較的覚えているということもありまして、少しはお役に立てるかと思えます。それからもう一つ、この機会を利用して、もう一度石川先生の著作を読み直して、先生の教えにもう一度触れてみたいと思ったわけです。

ただ、読み直すだけではすぐに忘れてしまいますから、重要な事柄についてはその要旨をメモに書き出していつでも読めるようにしておこうと思ったのです。そういうことならこれを『品質月間テキスト』にすればどうかと狩野先生

からご示唆いただきまして、それはグッドアイデアだと。出版社の話ですと、最近では厚い本と高い本は売れないとのことで、『品質月間テキスト』は石川先生のお考えをさらに普及させるのに最適な手段でございます。といたしますのは、『品質月間テキスト』は4万字前後にまとめることになっており、A5判、数十ページで販売価格も1冊500円程度で求めやすくなっているからです。品質月間委員会にお願いしましたところ、ご快諾をいただきまして、早速その仕事に着手したわけでございます。日科技連出版社のご尽力を得まして、『石川馨 品質管理とは』（久米均編）にまとめることができました。

『品質管理とは』という題名は、ご年配の方はご記憶があるかもしれませんが、日本で品質管理の普及のために石川先生が差し当たって講義用のためにつくられた本の名前で、われわれは通称「とは」と呼んでおりましたが、石川先生の『品質管理とは』のことであり、私にとっては非常に懐かしい名前です。その本は、後に『品質管理入門』という本にまとめられたわけでありますけれども、この名前をもう一度使わせていただくのがよいかと思い『品質管理とは』という題名を使わせていただくことにしました。

日科技連出版社のご尽力でこのような冊子ができました。私は若干納期を心配していたのですが全然問題なく、今日に間に合えばよいかと思っていましたが立派に間に合わせていただきました。本日の参加者には、これを1部ずつ差し上げたいということで、皆さんに配付された封筒の中に入っているはずでございます。ご一読をいただきまして、これは良い本だと思われましたら、皆さんのお知り合いにお勧めいただければ有難いです。ただし、この場合は有料でございます。

海外の人たちには英訳があればよいと思いました。機械的な翻訳ではなく、石川先生の哲学を確実に訳出できる翻訳家として、石川先生の著書『品質管理入門』の翻訳を手がけられ、海外技術者研修協会（AOTS）の季刊紙『研修』の品質管理関係の記事の翻訳を40年近くやっていただいた、私の論文についてもいろいろご面倒いただいた、英国のJ. H. Loftusさんが最適であると思ひまして、早速それをお願いしたわけでございます。Loftusさんは既に翻訳の仕事を辞めておられましたけれども、長年の付き合いだということと石川先生の本だ

ということで快く引き受けてくださいました。費用的、期間的に全訳は難しいと思いましたが、特にコアとなる部分だけをお願いいたしました。海外からご参加いただきました方には、ご希望があればその冊子を差し上げたいと思っております。

本日は、石川先生にゆかりのある多くの方々からいろいろなお話が伺えると思いますが、単に思い出話に終わるのではなく、これを契機として石川流品質管理がリフレッシュされ、新たな装いで再スタートすることを期待しております。

以上をもちまして、私のご挨拶といたします。

オリエンテーション

小大塚 一郎

日本科学技術連盟 専務理事／実行委員会副委員長

皆様、おはようございます。石川先生の生誕 100 年記念事業の実行委員会副委員長を仰せつかっております日科技連の小大塚でございます。実行委員会を代表いたしまして、この記念事業の一環として開催いたしますこの国際シンポジウムに多数ご参加いただきまして、本当にありがとうございます。今回、招待の方々、それから有料の方々を合わせまして国内外から約 260 名の方々にご参加いただきました。誠にありがとうございます。

既に久米先生からご案内がありましたけれども、本シンポジウムは石川馨先生のご偉業とお人柄を再認識するとともに、先生の教えを踏まえて TQM、QC サークルを今後一層発展させていくためには何をなすべきかという視点から、このシンポジウムを企画いたしました。講演者は国内外から石川先生の門下生の方々、それから TQM、QC サークル活動の関係者を招聘いたしまして、ご講演、パネル討論会を企画いたしました。

プログラムといたしましては、Part. A と Part. B に分けまして、Part. A につきましては、石川先生の成し遂げられたご偉業とお人柄として 6 名の講師の方々にご講演をいただく予定でございます。その後にパネル討論を企画いたしました。Part. B につきましては、TQM と QC サークルの一層の発展のために今後なすべきことは何かとして、お一人基調講演をいただいた後にパネル討論会を設けております。そして最後に、実行委員会委員長の狩野先生に「総括」をお願いしております。いずれも各ご講演は同時通訳を配置しておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

石川馨先生の生誕 100 年に当たりまして、今なお示唆に富む先生の品質管理の思想や教えを再認識いたしまして、今後の持続的成長に向け品質管理を発展させていただく場となり、少しでも皆さまの今後のご活動にお役に立てた

けるよう祈念いたしまして、全体のオリエンテーションとさせていただきます。
どうもありがとうございました。